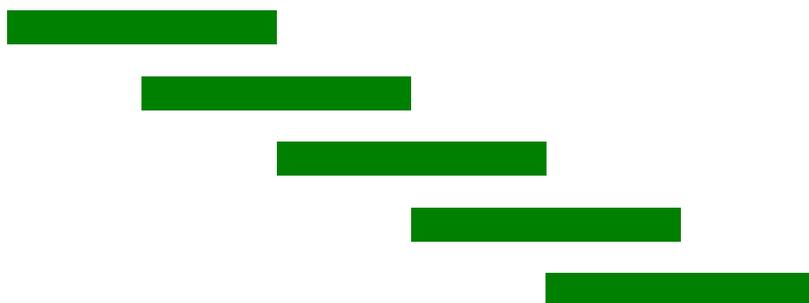


77回生からの読書案内

(中学生)



甲南女子中学校・高等学校 図書館

読書案内の見方 (中学生)

著者名
『書名』(出版社)

請求記号

◆紹介者がまとめてくれた、あらすじ

【紹介者がこの本を読んだ学年】

【紹介者のお勧めのひとこと】

(紹介者の氏名)

(請求記号を記載していない本は、本校図書館では所蔵していません。)

目次

お勧めの本は、日本人の著者は姓名の五十音順に、
外国人の著者は姓名のアルファベット順に並べて、掲載しています。

青柳碧人	…… p. 1	坂木司	…… p. 9
顎木あくみ	…… p. 1	佐渡裕	…… p. 9
あさのあつこ	…… p. 1	汐見夏衛	…… p. 10、11
新井リオ	…… p. 1	重松清	…… p. 11、12
有川浩	…… p. 2	司馬遼太郎	…… p. 12
池上彰	…… p. 2	Jam	…… p. 12
伊坂幸太郎	…… p. 2	鈴木るりか	…… p. 12
井上悠宇	…… p. 3	住野よる	…… p. 12、13
岩井俊二	…… p. 3	瀬尾まいこ	…… p. 14
上橋菜穂子	…… p. 3、4	宗田理	…… p. 14
ウェルザード	…… p. 4	太宰治	…… p. 14
魚住直子	…… p. 4	知念実希人	…… p. 15
雨穴	…… p. 4、5	月島総記	…… p. 16
江戸川乱歩	…… p. 5	辻村深月	…… p. 16、17、18
太田愛	…… p. 5	友井羊	…… p. 18
小川洋子	…… p. 6	永井すみ	…… p. 18
荻原規子	…… p. 6	中山七里	…… p. 18
織守きょうや	…… p. 6	梨木香歩	…… p. 18
恩田陸	…… p. 6	夏川草介	…… p. 19
風野潮	…… p. 7	七月隆文	…… p. 19
川村元気	…… p. 7	額賀滯	…… p. 20
貴志祐介	…… p. 7	はやみねかおる	…… p. 20
岸見一郎・古賀史健	…… p. 7、8	半藤一利	…… p. 20
玄武聡一郎	…… p. 8	東野圭吾	…… p. 20、21、22
河野裕	…… p. 8	氷室冴子	…… p. 23
小坂流加	…… p. 9	平田オリザ	…… p. 23
坂木司	…… p. 9	藤本ひとみ	…… p. 23

ブレイディみかこ p. 23	Coolen Hoover (コリーン・フーパー) p. 30
万城目学 p. 23	J・K・ローリング p. 30、31
町田そのこ p. 24	ヨースタイン・ゴルデル p. 31
まはら三桃 p. 24	ルイザ・メイ・オルコット p. 31
三浦健太 p. 24	モンゴメリ p. 32
水野敬也 p. 24	ミヒヤエル・エンデ p. 32
湊かなえ p. 24、25	ウィリアム・シェークスピア p. 32
桃戸ハル p. 26		
森絵都 p. 26		
森見登美彦 p. 26		
椰月美智子 p. 27		
山口恵以子 p. 27		
山田悠介 p. 27		
吉川英治 p. 28		
吉野源三郎 p. 28		
ダニエル・キイス p. 28		
サン＝テグジュペリ p. 29		
W.ブルース・キャメロン p. 29		
フランチェスコ・ダダモ p. 29		
アガサ・クリスティー p. 29、30		
バーネット・フランシス・ホジスン p. 30		

青柳碧人

『浜村渚の計算ノート』（講談社）

913.6/A/1

◆数学を用いて事件を起こすテロリストたちと、女子中学生浜村渚が数学で戦う数学ミステリー。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 数学が好きでない人でも、数学の楽しさを知る事ができる小説です。数学が好きな人は、より楽しめるのではないかと思います。

(佐藤陽奈)

顎木あくみ

『わたしの幸せな結婚』（KADOKAWA）

所蔵無し

◆名家に生まれるも早くに実母を亡くした斎森美世は、継母と義妹から使用人同様に扱われていた。ある日、美世は御曹司の久堂清霞に嫁入りするよう命じられる。しかし、清霞はその美貌とは裏腹に、婚約者候補が3日で逃げ出すほど冷酷無慈悲だと言われていた。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 王道のシンデレラストoryが好きの方には絶対読んでほしい一冊です。王道でありながらも、既視感といったものがない、新しい和風シンデレラストoryになっていて、こころが温かくなる場面が沢山あります。

(大山田藍風)

◆虐げられて育った少女が、冷酷無慈悲と噂されている軍人と結婚する。内気な少女と不器用な夫のラブストーリー。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 2人とも初々しい感じがかわいい。

(吉田葵)

あさのあつこ

『X-01』（講談社）

913.8/A/1

◆平凡な日常を過ごす由宇と將軍として日々激戦するラタ。ある日を境に2人が交わりだします。運命に翻弄される2人の魂の物語。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 第三巻以降更新が止まっていて焦らされる感じもたまりません。また、色々な状況が入り混じるので没頭できます。

(藤長玲)

新井リオ

『英語日記BOY：海外で夢を叶える英語勉強法』（左右社） 830.7/A

◆著者が、お金をかけずに自分が持っているツールを使って英語を学んだ方法を教えてください。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 著者も英語が得意な方ではなかったけれど、自分の好きな仕事に英語を使うことによって世界が広がるどころ。

(岡田南萌)

有川浩

『阪急電車』（幻冬舎）

913. 6/ア

◆阪急今津線を舞台に、電車に乗るさまざまな人々の人生が交錯する感動的な物語。
【自分が読んだ学年】 中学生
【お勧めの点】 次の駅に乗り換えるたびに物語も主人公も切り替わります。全てが同じ列車の中で存在する物語であり、人間関係のあり方や似たような経験など共感することが多くある作品。

(坂口梨香)

◆阪急電車の実際の駅を舞台に、乗り降りする乗客の恋を描いた短編小説集。
【自分が読んだ学年】 中学生
【お勧めの点】 電車に乗っている人それぞれの人生や恋が描かれており、舞台も阪急電車と身近なものなので読んでいて面白く、きゅんとすることができるようです。

(竹内楓)

有川浩

『旅猫リポート』（講談社）

913. 6/ア

◆サトルが猫のナナと暮らし始め五年。ある事情で別れなければならなくなり、新しい飼い主を探す旅に出かける。
【自分が読んだ学年】 中学生
【お勧めの点】 主人公のサトルの視点だけではなく、猫のナナの視点でも描かれることで伝わってくる二人の関係性に感動するところ。

(今村心温)

池上彰

『なぜ僕らは働くのか：君が幸せになるために考えてほしい大切なこと』（学研プラス）366/N

◆働く理由について、社会に出ていく前の私たち子ども世代が抱く社会の疑問について分かりやすく書いている。
【自分が読んだ学年】 高1
【お勧めの点】 なぜ勉強しているのか、なぜ学びは必要なのか、その根本をしっかりと考えて学ぶことができるようになる。

(文原咲果)

伊坂幸太郎

『陽気なギャングが地球を回す』（祥伝社）

913. 6/イ

◆確実に他人の嘘を見抜くリーダーを筆頭に、正確な体内時計の持ち主、演説の達人、天才スリという面々で組織されたギャング団が活躍する長編サスペンス。
【自分が読んだ学年】 小学生以下
【お勧めの点】 サスペンスながら痛快さも織り込まれていて、読後感が気持ち良い。読書に不慣れでも読みやすいと思います。

(中川知奈)

井上悠宇

『誰も死なないミステリーを君に』（早川書房）

913.6/イ

◆自殺、他殺、事故死などの死が「死線」として見える能力を持った志緒と、その死を回避する手助けをする佐藤。ある時4人の学生に死線が見え、彼らを死なせないための作戦として、安全なクローズドサークルを作ることが計画されるが、その4人が過去に自殺したとある生徒に関係していることがわかり、事件の真相が明らかになっていく、という話。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】 登場人物の名前がシオ、サトウ、ムトウなどと遊び心があり、その名前にも伏線が散りばめられている、という細かい伏線回収が今まで読んだミステリー本とは少し違い面白かったです。三巻まで出版されているので、ぜひ読んでみてほしいと思います。

（戸來樹咲）

岩井俊二

『キリエのうた』（文藝春秋）

913.6/イ

◆歌うことでしか言葉を発することのできない路上ミュージシャンを取り巻く人間模様を描いたヒューマンドラマ。歌うことでしか声を出せないキリエ、マネージャーを自称する謎多き女イッコ、二人と数奇な絆で結ばれた夏彦。別れと出逢いを繰り返しながら、それぞれの人生が交差し、奏でる13年の物語です。

【自分が読んだ学年】高3

【お勧めの点】 出会った人が自分には良い人に見えても、それまでにどの様に人生を歩んできたかは分からない。深いやり取りができて、それがずっと続いていくわけではないし、相手の人生すべてを理解できているわけではない。人と人との関係って、改めて難しいと感じさせられたところが良いです。

（小堀和香）

上橋菜穂子

『精霊の守り人』（新潮社）

913.6/ウ

◆バルサという三十歳の女用心棒が、新ヨゴ皇国の第二皇子チャグムをたすけ、彼を守るために奮闘する物語です。

【自分が読んだ学年】小学生以下

【お勧めの点】 主人公バルサがチャグムを守るために刺客や精霊と命をかけて戦う姿が、とてもかっこいいです。

（風間美音）

◆バルサという三十歳の女用心棒が、ひよんなことから新ヨゴ皇国の第二皇子チャグムを助け、彼を守るために奮闘する物語。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】 この物語はファンタジーですが、ファンタジーとリアリティが上手く混ざりあってとても面白いです。主人公の戦闘シーンや不思議な世界が圧倒的な描写によって書かれています。登場人物も個性的で、思わず唖ってしまうほど世界観が作り込まれていることも魅力です。さらにシリーズ一作目なので、続きを読めないことに悩まされることもありません。ぜひ読んでほしい一冊です。

（北城充穂）

上橋菜穂子
『獣の奏者』 (講談社)

913. 6/ウ/1

◆主人公のエリンは母親が鬮蛇を死なせた罪を問われたことにより、彼女の運命は大きく変わる。母親との別れから蜂飼いのジョウンとの出会いを経て、成長したエリンは母親と同じ獣の医術師を目指すことになる。さまざまな人に会い、助けられながら成長するエリンの姿を描いたファンタジー小説です。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】 私が特にこの本で魅力を感じる点は、自然の描写が多く用いられているところです。その風景や広大なスケールを想像して胸が躍ります。作者は「精霊の守り人」を書いた上橋菜穂子さんで、国際アンデルセン賞・作家賞を受賞しています。

(佐野文南)

ウェルザード
『カラダ探し』 (スターツ出版)

所蔵無し

◆夜の学校にて、カラダのパーツを探すため、学校の怪談・赤い人と繰り広げられる恐怖の鬼ごっこ。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】 最初は何も分からず赤い人に何度もやられてしまうばかりで、一方的に負け続ける高校生たちが、次第に赤い人の攻略方法を見つけ出し、みんなで協力して問題を解決していく様子が読んでいてワクワクします。

(真本帆乃夏)

魚住直子
『非・バランス』 (講談社)

913. 6/ウ

◆小学生の頃にイジメにあっていた主人公が、中学生になり、周りと触れ合うことに心を閉ざしていたが、ある女性に出会い自分の心の奥底にあった辛い気持ちが晴れ、前に進もうとする。そんな主人公が生きていく様子を描いた小説です。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】 一人一人の心情が細かく描かれており、主人公の家族関係や、人間関係での裏切り、言いたいけど言えない本音など、私たちが一度は経験していることが主人公の周りで起こります。きっと共感できる部分があると思うので、ぜひ読んで欲しいです。

(鳴見梨香那)

雨穴
『変な絵』 (双葉社)

913. 6/Uke

◆ブログに投稿された「風に立つ女の絵」、消えた男の子が描いた「灰色に塗りつぶされたマンションの絵」、ある遺体が残した「震えた線で描かれた山並みの絵」。これらの絵に隠されたメッセージを著者が明かしていく話です。

【自分が読んだ学年】高1

【お勧めの点】 絵があつたり、文字が大きめなので、本があまり好きでは無い人も読みやすいと思います。ストーリーもとても綺麗に繋がっていて面白いです。

(関川葉月)

雨穴

『変な家』（飛鳥新社）

913. 6/Uke

◆ごくありふれた都会の中古一軒家のはずが、間取り図に「謎の空間」が存在していた。知り合いの設計士はこの家はいたる所に「奇妙な違和感」が存在すると言う。この不気味な違和感に迫っていくと、驚くべき真相にたどり着いた。さあ、この違和感にあなたはすぐに気づくことができるでしょうか。

【自分が読んだ学年】高2

【お勧めの点】 ホラーミステリーですが、主にミステリーがメインなので、楽しんで読むことができます。YouTubeで『変な家』のあらすじが実写で投稿されているので、少しでも興味が湧いた方は一度見てください。

(伊藤恵)

雨穴

『11の間取り図：変な家2』（飛鳥新社）

913. 6/Uke/2

◆全国から集められた変わった間取りについて、ライターと設計士が謎解きする新感覚間取りミステリーの第二弾。

【自分が読んだ学年】高1

【お勧めの点】 映画化もされたベストセラー小説の続編です。本書はしっかりとした本格ミステリーです。後半に入ってから、二転三転する謎解き、最後は全ての伏線が綺麗に回収されるところが、不気味な内容でありながら爽快な読後感となります。

(小山璃乃)

江戸川乱歩

『怪人二十面相』（ポプラ社）

913. 6/エ/1

◆二十の顔を持つといわれる変装の達人・怪人二十面相が巻き起こす数々の怪事件に、名探偵・明智小五郎と、彼の助手・小林少年と彼率いる少年探偵団らが立ち向かう。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】 冒険小説として子どもも楽しく読めるこの作品は、主にサスペンスと怖さが売りである江戸川乱歩作品の中では従来なかった趣向の物語です。物語の内容も、展開が早く読みやすいです。

(井尻珠子)

太田愛

『犯罪者』（KADOKAWA）

913. 6/オ/1

◆興信所所長の鍮水と助手の修司、警察官の相馬の3人は通り魔事件の裏に、巨大企業と与党の政治家の存在を掴む。そこに浮かび上がる乳幼児の奇病。暗殺者の手が迫る中、3人は幾重にも絡んだ謎を解き、ついに事件の核心を握る人物「佐々木邦夫」にたどり着く。乳幼児たちの人生を破壊し、通り魔事件を起こした真の犯罪者は誰なのか。佐々木邦夫が企てた周到な犯罪と、その驚くべき目的を知った時、3人は一発逆転の賭けに打って出る。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】 一つの事件をきっかけに、次から次へと新しい事件、事実が飛び込んできて、最後までどうなるのか分からないスリリングな展開を楽しめる作品です。

(中塚はる)

小川洋子

『博士の愛した数式』（新潮社）

913.6/0ga

◆主人公の家政婦とその子供と博士が、数式を通して関係性を築いていく様子が描かれています。

【自分が読んだ学年】小学生以下

【お勧めの点】ストーリーがおもしろく、数学が苦手な人でも読みやすいところ。

(赤川瑞穂)

◆病気で記憶が80分しかもたない数学博士、そんな彼の家で働くことになった家政婦と内気な小学生の息子が織り成す、切なくも温かな物語。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】記憶が80分しか継続しない数学者の博士と、家政婦として雇われ、戸惑いながらも次第に博士との絆が芽生える主人公とその息子。親子ではないが、それ以上の温かさや優しさに満ちあふれた3人の日常に心が揺り動かされる。

(長崎心音)

荻原規子

『これは王国のかぎ』（KADOKAWA）

913.6/才

◆失恋した女子校生がアラビアンナイトの世界で、国政に振り回されながら失恋から立ち直る話。

【自分が読んだ学年】小学生以下

【お勧めの点】話に勢いがある、どんどん続きを読みたくなる。

(村上神楽)

織守きょうや

『記憶屋』（KADOKAWA）

913.6/才

◆夕暮れ時に公園の緑色のベンチに座っていると現われ、忘れた記憶を消してくれるという怪人の噂があり、大学生の遼一は、そんなものはただの都市伝説だと思っていたが、思いを寄せていた先輩の杏子が「記憶屋」を探しに行き、トラウマと共に遼一のことも忘れ去ってしまう。このことがきっかけで遼一が記憶屋の正体を探り始める物語です。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】ハラハラドキドキする部分があれば感動して泣けるようなシーンあり、きっと最後まで飽きずに読むことができます。またとても感動できるお話ですが、ミステリー要素やホラー要素もあったりなど、多くの人に面白いと思ってもらえる作品だと思います。

(米本結南)

恩田陸

『チョコレートコスモス』（角川書店）

913.6/0n

◆芝居の面白さには果てがない。一生かけても味わい尽くせない。華やかなオーラを身にまとい、天才の名をほしいままにする響子。大学で芝居を始めたばかりの華奢で地味な少女・飛鳥。二人の女優が挑んだのは、伝説の映画プロデューサー・芹澤が開く異色のオーディションだった。

【自分が読んだ学年】高1

【お勧めの点】興奮と感動の演劇ロマン。馴染みのない演劇の話だが、表現力がすごく、引き込まれます。

(櫻根菜々子)

風野潮

『氷の上のプリンセス』(講談社)

913. 8/カ

◆内気な主人公が挫折や悲しみ、課題を乗り越えながらフィギュアスケートに一生懸命取り組む姿を描いたもの。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】 沢山の素敵な仲間や先輩のおかげでどんどん成長していく主人公を見ることができて、とても面白かったです。スポーツや勉強で思い通りにいかないことは誰でもあるけれど、どんな時も支えてくれる人に感謝は忘れず、今まで頑張ってきた自分を信じるということが本当に大事なのだということを感じさせられました。

(山本実優)

川村元気

『世界から猫が消えたなら』(小学館)

913. 6/カ

◆余命宣告された「僕」が自分と同じ顔の悪魔と出会い、寿命を貰う代わりに世界から様々な物を消していく。そうするうちにやがて猫を消すかどうかの決断に迫られる。

【自分が読んだ学年】小学生以下

【お勧めの点】 とても文体がフランクで読みやすい本です。悪魔も猫も可愛いです。

(迫上彩七)

貴志祐介

『青の炎』(角川書店)

913. 6/キ/(C)

◆母と妹と主人公は仲良く平和に暮らしていた。しかし、その平穏な日々は突如現れた離婚した養父が家に居座りだしたことから徐々に崩壊していく。主人公は家族と日常を取り戻すため、ある計画を実行する。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】 この物語は心に深く刺さる作品です。また、家族の絆を深く感じられます。あるシーンで主人公が自転車を漕いでいる所で胸が痛く切なくなります。映画化もされているので、こちらも観ることでよりストーリーが鮮明に分かると思います。

(藤澤夏帆)

貴志祐介

『新世界より』(講談社)

913. 6/キ/1

◆1000年後の日本が舞台。「神の力(念動力)」を持っている人類が暮らしている。念動力(サイコキネシス)の技を磨くために学校に通っている主人公たちの物語。ある時隠された先史文明の一端を知ってしまった。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】 設定がすごく凝られています。途中まで設定が難し過ぎて何言ってるか分からないのですが、全てが分かった瞬間にめちゃくちゃ鳥肌が立ちました。アニメ化されていて、先にアニメを見たのですが、面白すぎて原作の小説も読みました。わかりやすいので先にアニメを見たほうが良いと思います。

(中村優那)

岸見一郎・古賀史健
『嫌われる勇気』(ダイヤモンド社)

146.1/K

◆フロイト、ユングと並ぶ心理学三大巨匠の一人、アドラー。日本では無名に近い存在ですが、欧米での人気は抜群で、多くの自己啓発書の源流ともなっています。本書では、アドラー心理学の第一人者である岸見一郎氏がライターの高賀史健氏とタッグを組み、哲学者と青年の対話篇形式で彼の思想を解き明かしていきます。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】この本は人生の生き方、感じ方を別視点で捉えることができ、悩まなくていいことと考えるべきことが見えてくると思います。私自身この本を読んで気持ちが楽になったことがあります。

(見通紗名)

◆フロイト、ユングと並び「心理学の三大巨頭」と称される、アルフレッド・アドラーの思想(アドラー心理学)を、「青年と哲人の対話篇」という物語形式を用いてまとめた一冊です。欧米で絶大な支持を誇るアドラー心理学は、「どうすれば人は幸せに生きることができるか」という哲学的な問いに、きわめてシンプルかつ具体的な“答え”を提示します。人生の行き方、感じ方を別視点で捉えることができます。

【自分が読んだ学年】高1

【お勧めの点】私もこの本を読んで、気持ちが前向きになったこともあるので、ぜひ皆さんに読んでいただきたい。

(黒田彩華)

◆この本を読むと、人生の生き方、感じ方を別視点で捉えることができ、悩まなくて良いこと、考えるべきことが、見えてくると思います。アドラー心理学を理解していると視野が広がります。私は中学生の頃、この本を読んでアドラー心理学を知り、もっとアドラー心理学を学びたいと思いました。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】多感な時期で、周りの人との人間関係に悩んで翻弄されることが多い今に読んでもらいたい1冊です。

(樽谷南那実)

玄武聡一郎
『君の小説が読みたい』(アルファポリス)

913.6/ゲ

◆主人公の翔也の前に、タイムリープを繰り返す茉莉花という女性が現れて、翔也が1週間後に死ぬことを告げる。茉莉花のタイムリープは翔也の死がきっかけとなっており、2人で翔也が死なない世界を作ろうと動き出す話。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】長々と会話が續かないので、飽きずに読むことが出来ます。また、読み進めていくと語り手が自分が思っていた人ではないと分かり、全ての結末を知ってからもう一度最初から読みたくなります。最後にある謎は人によって感じ方が違うので、ぜひ読んでみて欲しいです。

(茂下果歩)

河野裕
『いなくなれ、群青』(新潮社)

913.6/コ/1

◆目覚めると記憶を失った人々が暮らす島にいた。この島を出るためには自分が無くしたものを探さなければいけない。始めは島から出ることを諦めていた主人公だったが、1人の女の子と出会ったことで島を出ることを決める。そして島のある秘密にたどり着く。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】本を最後まで読み終えた時に、1番最初から張ってある伏線などを理解できて面白いです。シリーズ化や映画化もされているので、どんどん読み進めることができるのもおすすめのポイントです。

(廣瀬佳歩)

小坂流加

『余命10年』(文芸社)

913.6/コ

不治の病で余命10年の女性が1人の男性と再会し、気持ちが変わっていくお話です。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】本を読むのがあまり好きではない人でも、読みやすい本です。

(多月空)

◆余命10年と告げられた少女が趣味に情熱を注ぎ、恋に落ちる話。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】切ないけど素晴らしいお話です。

(葉百華)

坂木司

『ホテルジュシー』(角川書店)

913.6/サ

◆真面目な主人公が気晴らしで沖縄に住み込みで働き、そこで暮らす人、働く人や観光客とのお話。

【自分が読んだ学年】高2

【お勧めの点】沖縄の話なので爽やかかつ働く人も観光客も全員癖が強く、沖縄の人だなあと思う話がよくあって楽しい。特にオーナーのだるい感じとホテルのおばあちゃん達のご飯が美味しそうで食べたくなる。

(稲富苺香)

坂木司

『和菓子のアン』(光文社)

913.6/サ

◆百貨店の地下食品売り場の和菓子屋「みつ屋」で主人公・梅本杏子(アンちゃん)が働くお話。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】ほっこりできるミステリー。和菓子を推理するものとして扱っているのが面白い。読みながら和菓子を想像していると、だんだん食べたくなくなってきます。そしてほっこりと穏やかな気持ちになることができます。シリーズ第4作まで出ているので、ぜひ読んでみてください。

(北村杏奈)

佐渡裕

『棒を振る人生：指揮者は時間を彫刻する』(PHP研究所) 762.1/サ

◆2015年からウィーンへ渡り、指揮者として活躍する佐渡裕。楽譜について、指揮者が考えていること、音楽と仕事を振りかえる。

【自分が読んだ学年】高2

【お勧めの点】日本だけでなくヨーロッパでも活躍する佐渡裕さんの音楽を奏でるための考え、音楽観が語られている。指揮者としての楽譜の解釈の仕方やオーケストラとの関係など深く知ることができる。

(佐竹菜々子)

汐見夏衛

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』（スターツ出版）913.6/シ

◆戦時中の日本にタイムスリップした現代の女子中学生と特攻隊員の青年の切ない恋を描いた作品。

【自分が読んだ学年】高3

【お勧めの点】大ヒットした映画を見に行ってから本を読みましたが、主人公の年齢設定が映画と原作と違います。しかし、学生である自分と照らし合わせて読むことができ、今生きていることの幸せを実感させられます。そして続編もあります。

(和田美海)

◆毎日の生活に嫌気が差した中学2年生の百合は、母親とのケンカの末家を飛び出す。目を覚ますとそこは戦時中の日本であった。現代から昭和二十年の戦時中にタイムスリップする少女の物語。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】今を生きる幸せを感じることができる作品です。私たちには到底考えられないような戦時中の人々の考え方を理解し、現代の生活に改めて感謝するきっかけをくれる本だと思います。

(川本結花)

◆母親と衝突し家を飛び出した中学生の百合は、近所の防空壕跡地に逃げ込む。目が覚めると1945年の6月、戦時中の日本にタイムスリップしてしまっていた。偶然通りかかった彰に助けられ、百合は軍の指定食堂に連れて行かれる。そこで出会った人々と共に日々を過ごす中で、百合は何度も助けてくれる彰に惹かれていく。

【自分が読んだ学年】高1

【お勧めの点】動かしがたい運命によって、別れざるを得ない別れのシーンは、とても感動します。

(西崎柚稀)

◆戦時中にタイムスリップした少女と特攻隊員との恋愛を描いた作品。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】戦争による無慈悲さとどうあっても変えられない運命が辛くもあり、主人公の気持ちに共感し、切なくなり泣ける。

(野田桃寧)

汐見夏衛

『夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く』（スターツ出版）913.6/シ

◆言いたいことを言えず、自分を偽り優等生を演じてる主人公の女子高生は、孤独と窮屈さで心が死にそうになっていた。そんな時、自分が苦手感じていた男子生徒が描いた絵と出会い、心が救われた。それから絵をきっかけに、今まで関わることがなかった正反対な性格の男子生徒と交流する様になり、主人公は自分の感情を取り戻していく。

【自分が読んだ学年】中学生

【お勧めの点】「一緒に朝焼けを見たいと思った人が、一番大切な人」という言葉が素敵で、タイトルの意味と繋がった時は心が揺さぶられました。人の目ばかり気にしないで、自分に素直に生きることが大切だと気づかせてくれるお話なので、是非読んでみてください。

(水田璃子)

汐見夏衛**『まだ見ぬ春も、君のとなりで笑っていたい』 (スターツ出版)**

913.6/シ

◆周りと比較をして自分の思いを正直に言えずに抱え込んでしまう主人公。高校卒業後の進路が決まらず、恋愛も人間関係もうまくいかない中で、声の出ない少年との出会いをきっかけに前に進んでいく物語です。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 大ヒットし、映画化された『夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く』の続編が二冊あり、最後の話がこの本です。本の内容はもちろん、進路のことなど、自分にも重なるところがあったのでおすすめです。

(半田雅)

汐見夏衛**『あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。』 (スターツ出版)**

913.6/シ/2

◆中学二年生の宮原涼には物心ついた頃から何度も見る夢があった。空を飛んでいる夢、飛行機を操縦している夢、それに百合の花に囲まれて空を見上げる長い黒髪の女の子の後ろ姿の夢。転校先の学校で、加納百合と出会う。なぜか顔も知らない夢の中の女の子を思い出し、「やっと見つけた」という不思議な思いがこみ上げてくる。そして、まっすぐで凜とした百合に涼はどんどん惹かれていく。しかし、百合には忘れられない人がいた。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 この本は、映画にもなった『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』の続編で、百合が戦時中にタイムスリップして出会った彰の生まれ変わりである涼との物語です。『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』を読んでいる人はよく見かけるのですが、現代に戻った百合のその後、気になりますよね。新たな感動をもらえる、心温まる物語です。

(深松想子)

重松清**『きみの友だち』 (新潮社)**

913.6/シ/(c)

◆足の不自由な恵美ちゃんと病気がちなゆかちゃんは、ある事件をきっかけにクラスメイトの誰とも仲良くしなくなった。その2人をうらやましく思うクラスメイトの八方美人や弱虫など周りの子たちが、友だちってなんだろうと考えていく話。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 周りの人間関係について、そして特に身近な「友だち」の意味について深く考えさせられる小説です。今現在、悩んでいる人に正解を提示するような話ではないですが、読んだ後にはどこか悩んでいたことをもっと客観的に捉えることができるようになります。と思います。

(富川結葉)

◆交通事故で片足が不自由になってしまった少女。生まれつき腎臓が悪く、入退院を繰り返している少女。二人の寄り添うような信じ合う友だちを中心に、小学校高学年から中学校あたりの複雑で理不尽な、逃げ場の無い人間関係を10話の連作短編にしています。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 小学生高学年から中学生くらいまでの友達との話で、この本を読んだ後は人間関係について深く考えられ、より友達との時間を大事に過ごそうと思えます。

(中村真理奈)

◆1人の女の子とそれぞれの登場人物が関わっていくお話。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 題名のとおり、友だち関係の葛藤や心情の変化などが共感できる。思春期ならではの気持ちが上手く表現されていて良い。

(椎名あゆみ)

◆「友だち」との関係であれこれごたごたしている人々が、「みんな」を否定し、「友だち」である由香を大切にしようとする恵美と触れることで、何かしら変わっていく、というようなストーリーを「きみ」という二人称で描いている作品です。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 日常的に使っている「ともだち」という言葉の意味について深く考えるように作者が誘導しているところ。

(中島梨緒)

司馬遼太郎

『燃えよ剣』(新潮社)

913.6/シ/1(C)

◆誰もが耳にしたことがあるであろう、新選組副長・土方歳三。小さい頃は「バラガキ」と呼ばれ手が付けられぬ悪童と恐れられ、大人になり新選組では最恐の切り込み隊長として名を馳せ、敵や味方にさえも容赦ないその姿から「鬼の副長」と恐れられた暴力の化身の如き男。そんな彼の一生をスペクタクルに書いた作品です。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 司馬遼太郎の代表作の一つとして広く知られている名作。歴史好き、新撰組好きな人は読むべき。

(吉田知穂)

Jam

『多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。』(サンクチュアリ出版)159/J

◆ここにいない誰かからココロを守る64の考え方。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 人間関係で嫌な思いを引きずってしまうことありますよね。そんな時に読んで欲しいです。猫のキャラクターが優しく慰めてくれます。

(大久保莉子)

鈴木るりか

『14歳、明日の時間割』(小学館)

913.8/S

◆中学生という立場から学校生活での苦悩、笑い、絆などが鮮やかに描かれている。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 作家が当時中学生の女の子で、共感できる部分がたくさんある。

(香美沙和)

住野よる

『君の臍臓をたべたい』(双葉社)

913.6/ス

◆高校生の「僕」は、病院の待合室で「共病文庫」という名の闘病日記を拾う。それは人気者のクラスメイト・山内桜良が書いたものだった。やがて、「僕」は彼女が重い臍臓の病気で余命わずかだと知ることになる。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 積極的に人と関わりを持とうとしなかった主人公が、桜良と関係を持つことで感情が豊かになっていきます。主人公の感情が変化していくところも、見どころの一つです。臍臓を食べたいという意味が最後明らかになり、涙します。

(坂東華怜)

◆僕が病院へ行ったとき、置き去りにされた「共病文庫」と書かれた本を見つける。その本の持ち主は山内桜良という僕と同じクラスメイトのものだった。その本を読み、桜良が膵臓の病気であることを僕は知る。それをきっかけに、正反対の立場にあった2人はお互いの秘密を知り、尊重していった。果たして桜良の膵臓の病気はどうなるのか、二人の関係はどうなるのか。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 性格も好みも違う正反対な2人がデートするところが、好きです。

(戸澤美桜)

◆ある日、高校生の「僕」は病院で1冊の本を拾います。それはクラスメイトの山内桜良が、膵臓の病気を抱えた自分の気持ちを密かに書いていた日記帳でした。接点もなかった人気者の桜良が、余命わずかであることを知った僕は「秘密を知るクラスメイト」になり、やがて自分と正反対の彼女に惹かれていく物語です。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 重い病気を抱えながらも青春の日々を過ごす2人の姿に、今を懸命に生きる大切さを考えさせられたり、中には恋愛も含まれていて時には悲しく、思わず感情的になり自然と話に吸い込まれるような魅力的な点がポイントです。感動できる小説を読みたい中学生におすすめの名作です。

(吉田心愛来)

◆主人公は「人に興味がない」冷めた男子高校生。そんな彼の目の前に全く正反対な性格のヒロインが現れる。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 不治の病により余命幾許もない同級生と接していくうちに、心を開いていく主人公。2人が出会って成長していくところ。

(岡那々美)

◆主人公・春樹は「人に興味がない」高校生。 不治の病に罹って余命幾許もない同級生・桜良と接していくうちに心を開いていく。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 この二人の間に恋愛感情はなかったが、お互いを大切に思う友人同士になって、親密な仲になった。この本を読むと、周りの人を大切にしようと思えます。素敵の一冊です。

(品川結香)

◆膵臓の病気になった高校生が、残りの人生を今まで関わりすらなかった男子と過ごす。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 男子の前では前向きなキャラだが、内心では死ぬことを恐れている高校生の行動と感情に矛盾を感じるが、それがこのストーリーの重要な点だと感じた。

(高木陽菜)

住野よる

『また、同じ夢を見ていた』(双葉社)

913.6/Sumi

◆「幸せとは〇〇をすることよ」少しおませで勝気な読書家の主人公・小柳奈ノ花が、猫との散歩や様々な大人との会話を通じて、小学校での人間関係についての問題をはじめに様々なことについて悩み、葛藤しながら沢山のことを考える物語です。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 主人公を取り巻く個性的な人物との関係の変化や、それに伴う主人公の心情変化の表現が素直で懐かしい気持ちになります。主人公の考えている問題にヒントを与えてくれる大人たちは一体何者なのか、幸せとはどういうことなのか。主人公と一緒に考え、感情移入できる作品です。

(藤原百花)

瀬尾まいこ

『幸福な食卓』（講談社）

913. 6/セ

◆佐和子の家族はちょっとヘン。父を辞めると宣言した父、家出中なのに料理を届けに来る母、元天才兄の兄。そして佐和子には、心の中で次第にその存在が大きくなるボーイフレンド大浦君がいて……。それぞれ切なさを抱えながら、つながり合い、再生していく家族の姿を温かく描く。吉川英治文学新人賞受賞作。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 家族っていいよねって、ほっこりする話です。

（山内万葉）

瀬尾まいこ

『あと少し、もう少し』（新潮社）

913. 6/セ

◆寄せ集めのメンバーが、駅伝で県大会出場を目指す話。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 それぞれ個性やドラマがあり、襷を繋いでいく中でチームがまとまっていき一人一人の襷に込める想いに感動します。

（樽谷怜花）

瀬尾まいこ

『君が夏を走らせる』（新潮社）

913. 6/Seo

◆毎日を淡々と過ごしていた16歳の少年が、不良仲間の先輩から「夏休みの間、2歳の子の面倒を見て欲しい」と頼まれ、引き受けます。そして、悪戦苦闘してお世話をすると同時に自分自身とも向き合い始め、日々への向き合い方が変わっていきます。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 2歳の子をお世話をする場面がとても面白く、読みやすいです。また主人公の心情の変化にも注目してみてください。

（内山志歩）

宗田理

『ぼくらの七日間戦争』（角川書店）

913. 6/ソ/(b)

◆激しい規律が敷かれた中学校で、自由を求めて立ち上がった生徒と、校則のもとに生徒たちを制圧しようとする教師との戦い。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 1日目、2日目というように区切られていて、その一日一日が面白い。主人公やその仲間達の年齢が自分と近いので、彼らの発想力や行動力が刺激になる。

（阿部美月）

太宰治

『人間失格』（新潮社）

913. 6/ダ/(b)

◆人間社会の中で、上手に生きることのできない葉蔵が破滅していく様を追う物語。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 人間であるということの真理を知ること、人間としてどう生きるべきか、もっと自分を理解できます。

（吉田唯乃）

知念実希人

『天久鷹央の推理カルテ』（実業之日本社）

913.6/チ/1

◆天医会総合病院、統括診断部。ここには他の医師が「診療困難」とした患者たちが集められる。さらには、警察すら手に負えない原因不明の「殺人」や「謎」も……。天才医師・天久鷹央が解き明かす、摩訶不思議な「病」に秘められた驚愕の真実とは。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】天久先生が、難解かつ奇想天外なトリックを解くところ。

(加藤成葉)

◆統括診断部。天医会総合病院に設立されたこの特別部門には、各科で「診断困難」と判断された患者が集められる。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】頭脳明晰、博覧強記の天才女医・天久鷹央が解き明かす新感覚メディカル・ミステリー。推理小説が好きな人にオススメです。シリーズ化されていて、毎回最後にどんでん返しが待っています

(瀬川真里奈)

知念実希人

『崩れる脳を抱きしめて』（実業之日本社）

913.6/チ

◆研修医である主人公が、脳腫瘍を患う女性と出会う。だんだんと心を通わせていく二人。実習を終え、他病院へ勤務することになった主人公の元に彼女の死の知らせが届く。彼女は本当に死んだのか？ 彼女の足跡を追っていく恋愛ミステリー！！

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】次に起こる展開が読めなくて、早く続きが読みたくなるような仕掛けがたくさんあります！そうだったんだと思わず呟いてしまうような最後で、すっかりとした気分になることができます。

(森文香)

知念美希人

『ムゲンのi』（双葉社）

913.6/チ/1

◆眠りから醒めない謎の病気の患者を担当することになった医者 of 識名愛衣は、治療法に悩んでいたのだが、霊能力者である祖母の助言により、魂の救済マブイグミをすれば患者を目覚めさせられると確信した。愛衣は患者の夢世界に飛び込み、魂の分身、うさぎ猫のククルと一緒にマブイグミに挑む。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】現役医師でもある著者による医療知識とミステリーが合体した本書は、とても楽しんで読めました。現代医療と霊能力、最後の最後で大どんでん返しがあります。

(龍本佳奈)

知念実希人

『硝子の塔の殺人』（実業之日本社）

913.6/Chine

◆超ミステリマニアの隠居先で殺人事件発生。しかもミステリおあつらえ向きのメンバーで半数はミステリに熟知している。慣れ親しんだクローズドサークルに新しい側面を加え、現代で再現された一作です。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】ミステリ好きにはもちろん、生物選択を考えている理系生徒にもおすすめです。二転三転する展開に本当に読む手が止まりません。またこの一冊でミステリ基本事項をたくさん知ることができます。

(三好由衣)

月島総記

『小説 BATTLE OF TOKYO』 (KADOKAWA)

913. 6/ツ

◆スキルと呼ばれる特殊能力を持つ若者達が、架空未来都市「超東京」でそれぞれ異なる望みを胸にして激しいバトルを繰り広げる闘いと絆の物語。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】登場するキャラクターはJr. EXILEのメンバーを元に作られている為、メンバーそっくりの5グループ総勢45人のキャラが、グループ対抗で戦っていくのが激アツで面白い。

(奥田杏珠)

辻村深月

『ツナグ』 (新潮社)

913. 6/ツ

◆一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれるという「使者 (ツナグ)」。突然死したアイドルが心の支えだったOL、年老いた母に癌の報告ができなかった頑固な息子…ツナグの仲介のもとで死者と再会し、それぞれの想いを募らせる。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】連作短編集のためとても読みやすく、自分の人生を見直すことができるきっかけとなる作品だと思います。

(橋本夏帆)

◆一生に一度だけ死者と再会することを叶えてくれる「死者 (ツナグ)」。突然死したアイドルが心の支えだったOLや、失踪した婚約者を待ち続ける会社員など、どうしてももう一度会って伝えたい想いを抱えた人々の、心に染み入る連作長編小説。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】この物語は、死者を通して過去を振り返り、これから自分はどう生きるかを考えさせられる物語です。亡くなってしまった人に伝えなかったこと、届けたい思いがある人には特におすすめです。

(砂子愛裕美)

◆死んだ人に1度だけ会わせてくれる「使者 (ツナグ)」。突然死したアイドルが心の支えだったOL、年老いた母に癌告知出来なかった頑固な息子、親友に抱いた嫉妬心に苛まれる女子高生、失踪した婚約者を待ち続ける会社員、ツナグを経て再会した生者と死者の物語。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】感動的な小説で、生と死の間にある深い絆と葛藤を描いています。一見するとただのファンタジーかもしれませんが、読み進めるにつれて、人間の心理や感情の複雑さが深く掘り下げられ、生と死について考えさせられます。

(井上桜子)

辻村深月

『かがみの孤城』 (ポプラ社)

913. 6/ツ/1

◆中学生のころは、学校に居場所がなく部屋に閉じこもっている。ある日部屋の鏡が光りだし、ころは別世界へ吸い込まれる。おとぎ話のようなお城には、見知らぬ中学生6人が集められており、狼の仮面を被った少女がころたちにあることを告げるのだった。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】学校生活の中で悩みがある人や、学校に行きたくないと思っていた人に読んで欲しいです。伏線回収も素晴らしく、ストーリーの流れも綺麗なので、夢中で読んでしまいます。

(立石真央)

◆中学校に入学し、いじめがキッカケで不登校になってしまった主人公が、ある日部屋の鏡の世界に入り込む。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】中学生の時は人間関係で悩むことが多いと思うので、学校生活に疑問を持ったり、悩みがある人には是非読んでほしいです。

(富田紗也子)

◆いじめられて不登校になった子供たちがある日突然鏡からお城へと連れていかれて、「願いの鍵」を見つけたら、どんな願いでも叶えてあげると言われ、見ず知らずの子供たちとその鍵を探していく話。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】突然鏡からお城に行くことは現実的にありえないことだけど、この世ではいじめられて不登校になっている子供たちがたくさんいて、その子供たちが今後どうしていけばいいかを教えてくれる話。

(箕内麗音)

◆いじめによって不登校になった子どもたちが突然鏡の中のお城に連れてこられ、そこにいる狼のお面を被った女の子に、城に隠された鍵を見つければどんな願いも叶えると言われる。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】引き込まれる世界観が魅力的で、中学生の心情がわかりやすく描写されている。

(羽田秋豫)

◆中学生のころは、学校に居場所がなく部屋に閉じこもっていました。ある日部屋の鏡が光りだし、ころは別世界へ吸い込まれました。おとぎ話のようなお城には、見知らぬ中学生6人が集められており、狼の仮面を被った少女がころたちにあることを告げるという話。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】引き込まれる世界観が魅力のファンタジー小説。

(安丸千晶)

◆不登校の女子中学生が、鏡の中の世界を通して人と出会い成長する話です。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】終盤の怒涛の伏線回収が素晴らしい。この本はすぐに読者を引き込むので、読み始めると止まりません。読み始める時間帯には注意してください。

(黒田綺乃)

◆中学1年生のころは鏡に吸い込まれ、不思議な世界に迷い込む。同様に集められた6人の少年少女に、狼のお面をかぶった謎の少女・オオカミさまは城に隠された鍵を探せば、願いを叶えると告げる。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】とにかく伏線回収がすごくて、読み終わった後はすごくスッキリして、満足感の高い作品です。

(瀬村友美香)

◆不登校の少女・ころ、ある日当然鏡の世界に吸い込まれてしまう。そこには大きなお城が存在し、お城の中にはころと同じような悩みを抱えた子供達がいた。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】思春期の不安定な時期に、少し勇気をもらえる本です。

(吉川遙香)

辻村深月

『この夏の星を見る』 (KADOKAWA)

913. 6/Tsuji

◆2020年春、コロナ禍で登校や部活動が次々と制限される中、全国の中高生は複雑な思いを抱えていた。リモート会議を駆使して、全国で繋がっていく天文部の生徒たち。コロナ禍だからこそ出会えた新しい体験と人々の繋がりを描いた青春ストーリー。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 コロナ禍で色々なことが制限される中、星を見ることで繋がる生徒たち。色々なものを抱えた子たちが成長してゆく姿が感動的。

(山田美命)

友井羊

『スープ屋しずくの謎解き朝ごはん』 (宝島社)

913. 6/ト

◆スープ屋しずくの店主でシェフの麻野が悩みをスープとともに解き明かしていく、お腹も心も温まるミステリー。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 スープが出てくるどのお話も魅力的です。お腹もすくし、話が終わる頃は心が暖くなる話ばかり！一つ一つの話だけでなくシリーズを通して進んでいくストーリーが最高です。季節も巡っていく様子を一緒に感じられる最高の一冊。

(細矢ともみ)

永井するみ

『カカオ80%の夏』 (ポプラ社)

913. 8/N

◆主人公はカカオ80%のビターチョコレートとミステリーが好きな女子高校生。クラスの女子が姿を消し、彼女のネット閲覧履歴をたどると、イメージとは異なる行動がわかり始める。様々な人と関わる中で、変わっていく主人公の姿が描かれたミステリー小説。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 読みやすいけれど、複雑で巧妙な謎に結末が予想できないところ。

(岩松夏菜)

中山七里

『さよならドビュッシー』 (宝島社)

913. 6/ナ

◆事故で全身に大火傷を負った主人公がピアノコンクールの優勝を目指す中で、様々な事件に巻き込まれるミステリー小説です。音楽×ミステリーの点がとても面白いです。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 このシリーズは8作目まであるので是非順番に読んで欲しいです。

(清水花純)

梨木香歩

『西の魔女が死んだ』 (新潮社)

913. 6/ナ

◆主人公まいが、祖母と過ごす時間を描いた物語。まいは祖母に自分自身をコントロールする方法を教わった。やがて祖母が亡くなり、強い喪失感を体験したが、それを機にまいは新たな一歩を踏み出す決意をした。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 自分の人生は自分で決め、周りの意見に流されないということを学べる。

(山根香奈)

夏川草介

『神様のカルテ』（小学館）

913.6/ナ/1

◆夏目漱石の『草枕』を常に持ち歩いている医師が、担当する患者に心を動かされていくお話です。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 偏屈な主人公が、愉快的仲間たちやかわいらしい奥さんに支えられながら日々奮闘する様子が、読んでいてとても面白い。医師のお話なので当然死も描かれており、シリアスとユーモラスなシーンのどちらも味わえる作品。

(伊達教乃)

夏川草介

『スピノザの診察室』（文藝春秋）

913.6/Natsu

◆かつては大学病院で働いていた優秀な内科医である雄町哲郎が、京都の地域病院で町医者として患者一人一人に向き合っていくお話です。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 この本の作者は現役の内科医です。医者視点からの地域医療が温かく書かれています。大学病院時代は大きな手術を任せられ患者一人一人に向き合っているつもりだった哲郎が、小さな病院で働くことで患者に寄り添うことを始める姿が大好きです。また、哲郎は甘いものが大好きなので、京都の実際の銘菓が多く登場することもこの本のおすすめポイントです。

(南波咲希)

七月隆文

『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』（宝島社）

913.6/ナ

◆京都の美大に通う高寿(たかとし)がある日電車の中で1人の女の子に一目惚れをし、名前も声も知らないけれど、本能的に好きと感じた。高寿が電車を降りた女の子を咄嗟に呼び止め、学校がある駅を乗り過ごしてしまったという彼女が電車を待つ間、なんてことない話をしていると、電車がホームに到着した。それから、次の日もその次の日も会うようになり、初めてのデートで告白し付き合い始めた。交際がスタートし順調に進んでいた2人だが、次第に彼女の言動におかしな点があることに気がつくようになった。それは、2人が住む世界が異なっていて彼女の暮らす世界では未来から過去に時間が流れていることである。2人の世界が変わるのは5年に一度の30日間だけだった。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 2人は30日間という限られた時の中で恋をしている。愛する人が自分のことを忘れていく辛さが、切なく書かれている。

(播磨花胡)

七月隆文

『ケーキ王子の名推理』（新潮社）

913.6/ナ

◆高校生の未羽は、冷酷王子と呼ばれるパティシエ志望の颯人とひよんなことから知り合う。ケーキについて真剣に話す未羽を信頼してから冷酷王子は少しずつ心を開いていき、ケーキがつなぐ二人の関係がだんだんと変わっていく。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 本の中に出てくる様々なお菓子が、美味しそうで食べたくなります。1から7巻まで全て読んでしまうほど面白くてハマります。

(藤田真彩)

額賀 澤

『世界の美しさを思い知れ』（双葉社）

913.6/又

◆一卵性双生児の弟で人気俳優の尚斗が、突然自殺してしまう。遺書も残っていない中、兄の貴斗は尚斗の自殺の理由を求めて、弟が生前訪れた場所を順番に辿っていく。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】色々な場所を一緒に旅している気分になれるし、なにより世界の美しさの表現が本当に素敵な本です。ラスト数ページがとっても印象的で、最後の仕掛けは作者さんの他の作品を読んでいたならより楽しめます。

(豊浦京佳)

はやみねかおる

『帰天城の謎：TRICK 青春版』（講談社）

913.8/H

◆亡き父の様な立派なマジシャンを目指す中学生の山田奈緒子と、日本一周武者修行の旅をしている大学生の上田次郎は不思議な縁で出会い、N県の奇妙な伝説と踊りが語り継がれる踊螺那村(おどらなそん)で事件に巻き込まれる。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】この本は大ヒットミステリードラマ「TRICK」の大ファンである著者の完全新作書下ろしストーリーです。自称美少女売れっ子マジシャン・山田とポンコツ物理学教授・上田の出会いから、「とんでも設定」のちりばめられた謎とミステリーがとっても面白くて読みやすい作品です。ドラマの世界観がそのままに描かれているので、ファンにはうれしい内容となっています。

(早川結菜)

半藤一利

『15歳の東京大空襲』（筑摩書房）

081.9/チ/129

◆この本は東京の下町墨田区で半藤少年の11才から15才までの戦争体験記について書かれており、心臓病で出征できない青年と父を亡くした若き看護婦との悲恋を軸足にして、この戦火の下で必死に生きようとする人々の姿から真実に迫る内容で描かれている。また、祖父母のよく語る戦争中のキーワードが順番に出てくる。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】戦争の悲惨さを知ると同時に、今世界のいろんな所で戦争が行われている中で、平和に暮らせて普通に生活できるありがたみを感じることが出来る。作者の戦争体験と、いろんな資料を使って書かれているため、戦時中どんな暮らしぶりをしていたのかが書かれていて、戦争を知る良い機会になると思う。

(井上心結)

東野圭吾

『容疑者Xの献身』（文芸春秋）

913.6/Higa

◆天才数学者でありながら不遇な日々を送っていた高校教師の石神は、一人娘と暮らす隣人の靖子に秘かな想いを寄せていた。彼女たちが前夫を殺害したことを知った彼は、二人を救うため完全犯罪を企てる。だが皮肉にも、石神のかつての親友である物理学者の湯川学が、その謎に挑むことになる。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】愛と犠牲、そして人間の持つ複雑な感情を見事に描き出している本です。石神の思惑通り、最後の最後まで真相には気づけませんでした。私自身、ミステリーや推理小説など読んだことは殆どありませんでしたが、引き込まれて一気に読めましたし、この本を読んでからこの手のジャンルが好きになりました。是非、推理しながら読んでみてください！

(阿部瑞樹)

◆惨殺死体が発見され、新人女性刑事・内海は先輩と事件の捜査に乗り出す。捜査を進めていくうちに、被害者の元妻の隣人である石神が、ガリレオこと物理学者・湯川の大学時代の友人であることが判明。内海から事件の相談を受けた湯川は、石神が事件の裏にいるのではないかと推理する。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】直木賞受賞作品。東野圭吾の代表作の一つで、最後にどんでん返しがあります。

(原莉於)

◆天才数学者石神の隣人、靖子への純愛と、石神の友人である天才物理学者湯川との息詰まる対決が描かれたミステリー小説。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】ミステリー小説が好きな人には、刺さる内容だと思う。

(竹田裕希)

東野圭吾

『流星の絆』(講談社)

913.6/ヒ

◆何者かに両親を惨殺された三兄妹は、流れ星に仇討ちを誓う。14年後、互いのことだけを信じ、世間を敵視しながら生きる彼らの前に、犯人を突き止める最初で最後の機会が訪れる。三人で完璧に仕掛けたはずの復讐計画。その最大の誤算は、妹の恋心だった。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】さまざまな伏線が張り巡らされており、犯人がわかった時に全てが繋がりが感動します。

(加納瑞葵)

東野圭吾

『プラチナデータ』(幻冬舎)

913.6/Higa

◆警察庁の天才科学者・神楽は最新のDNA捜査システムを作り出した。そのシステムを使って連続殺人事件の犯人を検索したが、そこに示されたのは彼自身の名前だった。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】近い将来起こりうるかもしれないリアリティがある。結末が予想できないので、最後まで楽しめる。

(廣瀬純夏)

東野圭吾

『マスカレードホテル』(集英社)

913.6/ヒ/(c)

◆連続殺人事件現場に残された暗号を解くと、次の犯行場所はこのホテルであるということが判明する。そこで、刑事がホテルマンに化けて潜入捜査しながら、真相に迫るミステリーです。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】生意気な刑事がホテルマンになるというギャップが見どころ。

(日高美咲)

◆あるホテルが連続殺人事件の新たな犯行現場として予告される。これを受け、潜入捜査を敢行するエリート刑事の男と、その教育係を務めることになったホテル従業員の女性が互いに衝突を繰り返しながらも、次第に事件を解決していく。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】私の思うおすすめポイントは、細かな描写も事件への伏線になっているところです。2回目読んでやっと「ここも伏線だったんだ」と分かるところもあり、何度も読んで楽しめる作品だと思います。また、マスカレード・イブ、マスカレード・ナイトとシリーズ化されているのも魅力の一つだと思います。

(黒田かれん)

◆あるホテルが連続殺人事件の新たな犯行現場として予告され、そこでホテルマンとして刑事が潜入し、その刑事の教育係に当てられた女性のホテルマンとぶつかりながらも事件を解決してく物語です。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】最初はぶつかっていた潜入捜査をする刑事とホテルマンが、力を合わせて事件を解決していくところがとてもハラハラドキドキして楽しんで読むことができます。

(西蔵珠希)

東野圭吾

『ナミヤ雑貨店の奇跡』 (KADOKAWA)

913.6/ヒ

◆3人の少年が逃げ込んだ店、その名も「ナミヤ雑貨店」。そこは時空を越えたやり取りができる。昔の店長の代わりに未来からの返信を受け取り、多くの悩みを解決する。どんな相談が来るか、どの時空とつながるか、予期せぬ展開が待ち続けている。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】中学生はこの先、進路などでいろんな悩みがあると思います。いろんな立場から悩み事を考えてみると案外楽になるかもしれません。この本でいろんな悩みに触れて、この先の人生をしっかりと計画してください。

(李明玥)

◆悪事を働いた児童養護施設出身の3人組は、ある廃業した雑貨店に逃げ込む。そこはかつて悩み相談を受け付けていた雑貨店だった。廃業しているはずの店の郵便口から、突然悩み相談の手紙が投げ込まれてくる。内容から過去の人からの手紙だと考え、かつての店主に代わり3人が返事を書く。手紙のやりとりが増えるにつれて徐々に明らかになっていく雑貨店と児童養護施設の関係。時空を超えて手紙が未来を変えていく物語。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】最後に全てが一つに繋がっていくところは、鳥肌ものです。

(田頭真彩)

東野圭吾

『ラプラスの魔女』 (KADOKAWA)

913.6/ヒ

◆ある温泉地で硫化水素中毒による死亡事故が発生した。その捜査を担当した研究者は、事故現場で若い女の子が立っているのに気づいた。そして、ある不思議な出来事を目にした。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】本当にそのようなことが起こったかのように細かく書かれているので想像しやすく、内容がどんどん進むので読み飽きない。

(極楽地希寧子)

東野圭吾

『クスノキの番人』 (実業之日本社)

913.6/Higa

◆過去の罪で人生に絶望した主人公が、クスノキの番人として不思議な力を持つ木を守る仕事を引き受ける物語です。クスノキを通じて人々の心の悩みを解決し、自らも癒されていく中で、主人公は再び生きる意味を見出します。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】この物語は、人と自然、そして再生のテーマを描いています。この物語の魅力は、主人公がクスノキを通じて人々の悩みや心の傷を癒しながら、自分自身も成長していくところにあります。過去に悩む主人公が自然の力や人との出会いを通じて少しずつ前向きに生きる姿は、心に響くメッセージが詰まっています。また、不思議な力を持つクスノキの存在がファンタジー感があってとても引き込まれます。読んだ後、勇気と優しさが感じられる作品です。

(齋藤あかり)

氷室冴子

『なんて素敵にジャパネスク』(集英社)

913.8/ヒ/1

◆物語の舞台は平安時代。貴族・内大臣家のおてんばな16歳の娘・瑠璃姫が自身の結婚問題などから事件を起こしたり、また貴族社会の東宮・帝即位問題に関係する政治陰謀事件などを解決して行くラブコメディ作品。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】本が苦手な私でもスラスラ読めました。ストーリー展開が早く、読みやすいです。

(上繁藍里)

平田オリザ

『幕が上がる』(講談社)

913.6/ヒ

◆地区大会すら突破できない弱小演劇部が、新しい顧問と強豪校からの転校生とともに全国大会を目指す高校演劇部の成長物語。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】演劇を知っている人も知らない人も、舞台をつくることの楽しさ難しさを知ることができ、読むと高校演劇を試してみたくなるくらい引き込まれるのがポイントです。

(宝満美音)

藤本ひとみ

『かがやきの黒アゲハは知っている：探偵チームKZ事件ノート』(講談社) 所蔵無し

◆主人公である彩と6人のハイスpek男子がさまざまな問題を解決する謎解き物語。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】物語でありながら本格的な知識を得ることができる。本によって出てこない男子もいるが、主役だけでなく、脇役たちもかなりおもしろい。

(西田佳那子)

ブレイディみかこ

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(新潮社) 376.333/ブ

◆人種差別、ジェンダー、貧困問題などに日々悩む少年。世界の縮図のような日常を乗り越えていく親子の話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】思春期真っ只中の少年が直面するさまざまな問題は、私たにとっても身近にあるけど、気づきにくいものが多いと思います。読んでいくうちに、私たちが普段感じる違和感や悩みを、どう解決するかということの手助けになるのではないかと思います。

(宿南和日)

万城目学

『とっぴんぱらりの風太郎』(文藝春秋)

913.6/マ/1

◆時は戦国、豊臣から徳川の時代への大転換期。度重なる不運の末に、伊賀の国をクビになった忍びの風太郎。京でぼんくらな日々を送るなか、彼が出会ったのは一個のひょうたんだった。謎のひょうたんに誘われるように、風太郎は時代に翻弄されながら転がり始める。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】万城目学らしいコミカルな場面とシリアスな場面があり、スピード感もあって没入感があり面白いです。映画化もされた『プリンセス・トヨトミ』につながるお話です。

(山岡史歩)

町田そのこ

『52ヘルツのクジラたち』(中央公論新社)

913.6/Machi

◆過去を断ち切るべく東京から大分の海辺の町へ引っ越した主人公の三島貴瑚は、13歳の少年に出会う。彼は虐待を受けており、貴瑚は彼と一緒に住むことに。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】彼と向き合ううちに昔の自分自身を見てるかのような感覚になり、自分が周りと少し違うと感じて悩んでしまうことはありませんか？ この本はそんな感情を優しく包み込んでくれるはず。読み終えた後、タイトルに込められた意味が心に沁みる。

(猪師朝実)

まはら三桃

『奮闘するたすく』(講談社)

913.8/M

◆佑は、夏休み中、認知症のおじいちゃんに付き添ってデイサービスに行き、そこでの出来事をレポートし、自由研究として提出しなければならない。友だちの一平とケアハウスこもれびに通い、お年寄りと接しながら、佑は介護される人と介護する人、それぞれの気持ちに気づいていく。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】認知症の人と介護する人、それぞれの視点を考える事が出来ること。

(梶木遥奈)

三浦健太

『犬が伝えたかったこと』(サンクチュアリ出版)

645.6/M

◆「本当の幸せとは？」「今の私がある理由とは？」犬たちが教えてくれた大切なことを家庭や仕事に問題を抱えたさまざまな人の心の成長を通して、優しく伝えてくれる本です。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】犬は大切なことを後回しにできるほど、一生は長くなく、今よりも大切な時間はないと再認識させられます。

(山本椰菜子)

水野敬也

『夢をかなえるゾウ』(飛鳥新社)

913.6/ミ

◆主人公は「人生を変えよう」として何かを始めるけど、全部三日坊主に終わってしまうサラリーマン。しかし、ある日突然、彼の目の前にゾウの姿をした奇妙な生き物が現れます。「ガネーシャ」という名を持つ、インドからやってきたこの神様は、主人公の家にニートとして住みつき、ゲームをしては寝るだけ。変わるための行動・決断、それらを習慣にする。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】周りの人の幸せを考え、小さなことをコツコツ積み重ねていく大事さを教えてくれます。

(田中心優)

湊かなえ

『告白』(双葉社)

913.6/ミ/(c)

◆女性教師が自分の子供を殺した犯人をホームルームで告白する。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】それぞれがありえない行動をしていて、考えさせられる本です。

(土谷メイ)

◆子供を校内で亡くした女性教師が、終業式のHRで犯人である少年を指し示す。ひとつの事件をモノログ形式で「級友」「犯人」「犯人の家族」から、それぞれ語らせ真相に迫るお話。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】一人一人の心情が細かく描かれており、主人公の家族関係や、人間関係での裏切り、言いたいけど言えない本音など、私たちが一度は経験していることが主人公の周りで起こります。きっと共感できる部分があると思うので、ぜひ読んで欲しいです。

(二木友璃奈)

湊かなえ

『白ゆき姫殺人事件』(集英社)

913.6/Mina

◆化粧品会社の美人社員が、黒焦げの遺体で発見された。ちょっとしたことから時間の糸口を掴んだ週刊誌のフリー記者・赤星は独自に調査を始める。人々への聞き込みの結果、浮かび上がってきたのは行方不明になった被害者の同僚。ネット上では憶測が飛び交い、週刊紙報道は過熱し続ける。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】インタビュー形式で書かれていて、とても読みやすく、また内容も面白いので読んでいてドキドキします。

(小谷知永)

湊かなえ

『高校入試』(角川書店)

913.6/ミ

◆地元で有名な進学校である県立高校で、その入試を妨害するために勃発する出来事を描くミステリードラマです。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】人間の怖さ、腹黒さが見事に描かれています。

(奥田清夏)

湊かなえ

『豆の上で眠る』(新潮社)

913.6/ミ

◆失踪した姉の万佑子が2年後に突然姿を現す。家族が喜ぶ中、妹の結衣子だけは姉の姿に違和感を覚え、その真相を探っていく。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】全く予想できないような怒涛の展開が、最後に待ち受けています。

(山本佳奈)

湊かなえ

『ブロードキャスト』(KADOKAWA)

913.6/ミ

◆町田圭祐は中学時代、陸上部に所属し、駅伝で全国大会を目指していたが、3年生の最後の大会、わずかの差で出場を逃してしまう。その後、陸上の名門校、青海学院高校に入学した圭祐だったが、ある理由から陸上部に入ることを諦め、同じ中学出身の正也から誘われてなんとなく放送部に入部することに。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】これから部活に励んでいく中学生に、好きものや何かをすることに夢中になることが素敵だと気付けるぴったりな作品だと思います。

(武田紗矢香)

桃戸ハル

『5分後に意外な結末ex』 (学研)

913.88/G/13

◆いろんな設定の登場人物や場面が舞台となった短編集です。タイトル通り、意外な結末があります。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】一つ、5分で読める物語が一話完結の短編となっているので、続けて読む必要がないところがよいです。

(藤田和海)

森絵都

『カラフル』 (文芸春秋)

913.6/モ/(b)

◆自死した少年・真の体に仮滞在して、自分の過ちに気づけば、もう一度生き返るという抽選に当たり、この世に戻った「僕」の生き直しの物語。気づかなかった気持ちや、前世の自分の罪について理解していく物語です。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】天使というファンタジックなものが登場しながら、主人公の生活は現実的です。真の死をきっかけに変わる、モノの見え方を鮮やかに描いたところが印象的。

(石田桃菜)

◆ある日、死んでしまいあの世に来た主人子の「僕」は、突然現れた天使に生き返るチャンスを与えると告げられる。そして「僕」は亡くなった少年・真の体を借りて、また生き返ることになった。真の体を借りて感じた様々な感情と想いから、徐々に「僕」は自分の犯した罪を知る。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】『カラフル』は原作も感動的で素晴らしいですが、アニメ化や実写化もされていて、そちらの方でも楽しめるのでお勧めです。

(石橋怜花)

◆前出の罪により輪廻のサイクルから外されたぼくの魂が天使業界の抽選にあたり、再挑戦のチャンスを得る。そして自殺を図った少年、真(まこと)の体にホームステイし、自分の罪を思い出していく物語。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】主人公が中学生であり、学校のことや家庭のことなどで共感できる所があるので読みやすいです。

(西口かれん)

森見登美彦

『夜は短し歩けよ乙女』 (角川書店)

913.6/モ

◆「黒髪の乙女」に想いを寄せ、京都の街の至るところで彼女の姿を追い求める主人公の「先輩」。仕組まれた偶然の出会いにも全て「奇遇ですねえ！」と答える乙女と「たまたま通りかかったものだから」と返す先輩が個性豊かな登場人物たちと共に、様々な珍事件に巻き込まれていく。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】癖は強いけどリズムカルな文体に、最後まで楽しく読める小説です。ファンタジーのようでファンタジーでない、読み終わってもずっと偽電気ブランの味が気になってしまって、どうにも京都を訪れたいくなる不思議な魅力がポイントです。

(坂本理彩)

椰月美智子
『14歳の水平線』(講談社)

913. 6/ヤ

◆思春期真っ只中の加奈太が、夏休みに父親の故郷の島で中学2年生限定のキャンプに参加する。その島は父親が子供の時からの言い伝えがある島だった。そんな中で個性あふれる6人での共同生活の中で見つけたものは…。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】14歳という年齢は思春期真っ只中であり、その中で仲間と助け合いながら生活していく姿が印象的です。さらに加奈太の父親が14歳の時にその島で体験したことも描かれており、親子の体験の繋がり方にも注目です。

(成尾明日花)

◆中学生の加奈太が父親の故郷の島でキャンプに参加し、友情、身近な死に直面する姿を描いた成長物語。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】自分と同年代の主人公が家族や友達との関係に葛藤しているので、共感できる場所が多くあり読みやすいです。

(住徳優香)

山口恵以子
『毒母ですが、なにか』(新潮社)

913. 6/ヤ

◆たゆまぬ努力で自らの夢を次々実現してきた。そして次なる目標を子どもたちの教育に定めた。子どもたちにも幸せになってほしいから。努力と幸福を信じて猛進する女の非喜劇を描く長編作品。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】母親の気持ちもわかるし、押し付けられる子供の辛さもわかる。誰が読んでも共感できる部分があるはず。

(谷口彩弥)

山田悠介
『リアル鬼ごっこ』(幻冬舎)

913. 6/Yama

◆この本は、私たちが住む日本を舞台に鬼ごっこを行う物語だ。ただし、追われるものは全国の「佐藤」という名字を持ってしまった人のみ。そして、鬼に捕まってしまったものは、全員死ぬ。物語中では、日本は王国と表現されており、王様が存在する。この王様は、自己中心的で厄介な性格をしており、ひよんなきっかけから王国中の佐藤さんを滅ぼすために、この命懸けの鬼ごっこを計画した。主人公の佐藤翼は、さまざまな出会いを支えにこの鬼ごっこに立ち向かっていくが、その中でたくさんの別れにも直面する。王国中が、被害を受けた者たちの怒りや悲しみで満たされていく中、様々な気持ちを背負った佐藤翼は衝撃的な結末を迎える。王国中の佐藤さんの運命はいかに。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】主人公の佐藤翼は、父親が日常的に暴力を振るうことが原因で、幼い頃に最愛の母と妹と離れ離れになってしまうような複雑な家庭環境下で育ってきた。そんな翼が、この命懸け鬼ごっこを機に、少しずつ真実を明らかにし、大切な人に再会する。その一方で、王様の理不尽により、普通の生活を送ることさえ許されないことへの怒りも生まれてくる。そんな歯痒い状況が描かれているので、現代の便利な生活を送っている私たちにとって、日々の生活を当たり前前に送れていることに感謝することを思い出させてくれる、素晴らしい小説だといえる。

(堀田菜々美)

吉川英治
『三国志』(新潮社)

913.6/ヨ

◆後漢末期の中国。黄巾の乱による混乱の中、世の中を憂いた劉備が民を救おうと、関羽・張飛と桃園の誓いを結び、立ち上がる。一方その頃、曹操も風雲の時代に乗り出そうとしていた。宮廷で横暴の限りを尽くしていた董卓を倒し、曹操は霸王の道へ。一方、流浪を続け、追い詰められた劉備は諸葛亮を仲間に引き入れる。長江南岸では、孫権が亡き兄孫策のあとを受け継ぎ、江南に勢力を広げていた。そして曹操に対抗するため、「天下三分の計」を策略する諸葛亮。劉備と孫権は同盟を結び、赤壁にて曹操軍と対峙する。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】圧倒的なスケール。歴史のロマン。かなりの数の豪傑・英雄が出てくるから、きっと推しが見つかるはず。最初は登場人物の多さにこんがらがるとは思えないけれど、最後まで読んだらハマること間違いなし。新潮文庫の吉川英治版三国志は全十巻ありますが、あっという間に読めます。ちなみに私は、張遼などの魏軍が結構好きです。

(鈴木ゆずみ)

吉野源三郎
『君たちはどう生きるか』(岩浪書房)

159.5/ヨ

◆コペルくんが友人関係などから様々なことを考え教わり、そして学んでいく話。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】哲学的な話だから、読んで浸れるところ。叔父さんがコペルくんに向けたノートのパートも良い。

(森山凜子)

ダニエル・キイス；小尾芙佐訳
『アルジャーノンに花束を』(早川書房)

933.7/キ

◆幼児の知能をもつ32歳のチャーリーは、脳外科手術を受け超天才になった。そんなチャーリーの経過報告という形で物語が進んでいく。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】この小説の文章は主人公を通して描かれています。最初はチャーリーの知能に合わせた平仮名ばかりで誤字が目立つ文章です。しかし、手術を受け、彼の知能が上ると同時に、文章は知性を帯び、抽象的で複雑な内面の描写へと変化していきます。医学の力により、自身が強く望んでいた知性を得たチャーリーですが、そんな彼の姿を通して、本来の自分を受け入れなければならない不条理さも感じます。

(重光夏葉)

◆幼児並みの知能しかない32歳のチャーリーは、脳外科手術を受け超天才になった。そんなチャーリーの経過報告という形で物語が進んでいく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】人間にとって幸せとは何か、考えさせられる本だった。

(安井綾花)

サン＝テグジュペリ
『星の王子さま』(岩波書房)

953.7/サ

◆砂漠に飛行機で不時着した「僕」が出会った男の子。それは故郷の星を離れ、いくつもの星を巡り7番目の星・地球にたどり着いた王子さまだった。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】最も愛らしい王子様を優しい日本語でよみがえらせた名作。王子様の可愛らしさと切なさに、王子様をぎゅっと抱きしめたくと思います。

(平石珠梨)

W. ブルース・キャメロン；青木多香子訳

『僕のワンダフル・ジャーニー』（新潮社）

所蔵無し

◆最愛の飼い主と再会するために何度も生まれ変わった犬と人間との絆を描いた映画「僕のワンダフル・ライフ」（原作：「野良犬トビーの愛すべき転生」）の続編。あれから幸せな日々を過ごしていた犬のベイリーは、大好きな飼い主・イーサンから孫娘を守ってほしいという新たな使命を与えられ、また何度も生まれ変わる。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 大好きなイーサンからの使命により、今作でも何度も違う犬に転生していく犬のベイリー。犬の目線から見た人間の様子や、作中の犬の純粋で大好きな人を一生懸命に愛してくれる真っすぐな愛らしさがたまりません。前作同様、今作もハンカチ必須です。

（丸尾美那）

フランチェスコ・ダダモ；荒瀬ゆみこ訳

『イクバルの闘い：世界一勇気ある少年』（鈴木出版） 973.8/D

◆パキスタンの過酷な児童労働について描かれている。毎日ロクに食事や休息を与えられずに働かされている子供たち。そんな時新しく、イクバルという少年がやってきます。彼はこの状況を変えるために動き始めます。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 文章やあらすじが分かりやすく、とても読みやすいです。自分達と同じくらいの子達が働かされている状況や、彼ら自身の感情が細かく書かれているので、「探求」等の授業にも活用できると思います。

（梅村真帆）

アガサ・クリスティー；清水俊二訳

『そして誰もいなくなった』（早川書房）

933.7/ク

◆差出人不明の招待状に呼び寄せられ集められたお互いに面識のない男女10人。徐々に外界との繋がりが絶たれていき、遂には全ての手段が途絶え、完全な孤島と化してしまいます。1人ずつ順番に消えていく兵隊の人形。数え歌の通りに死んでいく男女たち。果たして犯人は誰で、どんなトリックを使ったのでしょうか。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 ミステリーの女王、アガサ・クリスティーの代表作です。読みながら誰が犯人なのか、どんなトリックが使われたのかを見破ってみてください。この本を読み終えた頃には、新しいミステリーの扉を開くことができます。

（井藤愛莉）

◆ある孤島に招待されたお互い面識のない男女10人。突然聞こえてきた謎の声と共に、1人ずつ殺されていく。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 人が徐々に減っていくなかで、犯人を予想するのが楽しいです。

（谷口実優）

アガサ・クリスティー；長沼弘毅訳
『オリエント急行の殺人』（早川書房）

933. 7/ク/8

◆雪に閉ざされた寝台列車で起こる殺人事件。犯人は一等客室の乗客13人の中にいる。目的も職業も性別も年齢も何もかもが違う乗客たち。遺体に刻み込まれた刺し傷には統一性が一切ない。乗客たち1人1人の証言と、現場に残された犯人の落とし物だけが数少ない手がかりとなる。世界が誇る名探偵、エルキュール・ポアロは果たしてこの謎を解くことができるのか。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 ミステリーといえばアガサ・クリスティー。アガサと言えばオリエント急行殺人事件だろう。初めて読んだ時、あまりの結末に驚いて眠れなかったことを覚えている。アガサはミステリーを書くにあたり「どのような性別の、どのような年齢の人でも可能なトリックを意識している」と言っていたと言われている。その言葉の通り、オリエント急行にはさまざまな性別、年齢の乗客たちが登場する。どの乗客も犯人に当てはまり、そしてどの乗客も犯人に当てはまらない。そんな、矛盾に溢れたトリックを世界一の名探偵であるエルキュール・ポアロが1つ1つ解き明かしていくシーンは思わず時間を忘れて読み耽ってしまうことだろう。ぜひ、あなたにも美しくて悲しい、寝台列車の旅を体験してみしてほしい。

(田中伶奈)

バーネット・フランシス・ホジスン；山内玲子訳
『秘密の花園』（岩波書店）

080. 9/イ/124

◆流行り病により両親を亡くした愛を知らない孤独な少女・メアリーは、イギリスのヨークシャーに住む伯父のクレイブンに引き取られることになる。そこから世話係のマーサや、その弟・デイコンと心を通わす内にお転婆で元気な少女へと変化していく。しばらくして、メアリーは屋敷の庭に厳重に隔離された場所があることを発見する。それは亡き伯母が大切にしていた花園だった。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 親の愛情を知らず人との交流をせずに育った、まるで薔薇の棘のようだったメアリーが、人の温かさや友情を知り、そして田舎の自然の中で伸び伸びと暮らすことで、可愛らしい思いやりのある女の子に成長していくところ。

(丸尾美那)

Coolen Hoover
『It Ends with Us』（originally published）

所蔵無し

◆フラワーショップを開業したばかりのリリーと脳神経外科医のライルは、偶然の出会いから恋に落ち結婚。仕事もプライベートも充実した毎日だったが、ライルには幼い頃のトラウマがあることが発覚。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 最後の最後まで読む人の心を揺さぶりつづけ、全米の女性をとりこにしたノンストップ恋愛小説。ただの恋愛小説かと思いきや色々考えさせられる小説です。

(柳楽香怜)

J・K・ローリング；松岡佑子訳
『ハリー・ポッター』シリーズ（静山社）

933. 7/ロ/1-1~7-3

◆ハリー・ポッターという少年が魔法界で自身の運命と向き合っていく話。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 登場人物の心情やストーリーがありありと描かれていて、作品の世界に没入することができます。映画では観たことがある人も、小説を読むとまったくこの作品のことが好きになると思います。

(森紗弥)

J・K・ローリング；松岡佑子訳
『ハリー・ポッターと賢者の石』（静山社）

933. 7/口/1-1

◆意地悪な親戚と一緒に暮らしていたハリーに魔法学校から入学許可証が届き、自分が魔法使いであることを知る。ハリーはロンとハーマイオニーと友達になり、楽しい学校生活を送っていた時、学校のある秘密を知る。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】自分もhogwartsに通いたくなるほど、魔法学校での生活がリアルに描かれており、映画では無いシーンも小説にはたくさんあり、映画を観たことがある人もない人も楽しめる作品。

(清水花音)

◆いじわるな親戚ダーズリー家の元でいじめられながら暮らしていたハリー・ポッター。11歳の誕生日を迎えようとしていたある日、ハリーの元に、hogwarts魔法魔術学校から入学許可証が届きます。闇の魔法使いヴォルデモートと対峙した際に生き残った魔法使いの男の子。自分が魔法使いだと知ったハリーは、hogwartsの門番ハグリットとともに、入学のために必要な道具を揃えることに。後日、キングズ・クロス駅にある9と4分の3番線から、ハリーはhogwarts特急に乗り込みます。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】日常ではありえない感覚を味わうことができます。話の伏線が多く、様々な登場人物の複雑な心情変化が読んでいてとても面白いです。何度も読みたくなる名作です。

(山神七穂)

ヨースタイン・ゴルデル；池田香代子訳

『ソフィーの世界：哲学者からの不思議な手紙』（NHK出版）949. 63/G/(c)

◆主人公ソフィは14歳のノルウェーの女の子。ある日、不思議な手紙が家に届くようになる。差出人である謎に満ちた男、アルベルト・クノックスが文通という形で哲学について教えてくれるというのだ。ソフィーは学校では教わらない哲学の世界に興味を持ち、それを楽しみに日々を過ごす…。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】ファンタジー小説なのに、哲学のいろはを教えてくれる立派な教本でもあります。少しミステリー要素のある上、それらの華麗な伏線回収も楽しめます。対象は14歳以上の「大人」。学校では教わらないけど、知るだけで世界が変わる哲学に少しでも興味があれば読んで損はないです。その読みやすさから、全世界5000万部突破の大ベストセラーです。

(林夏璃明)

ルイザ・メイ・オルコット；吉田勝江訳

『若草物語』（講談社）

933. 8/オ/1

◆「若草物語」は、マーチ家の4人の姉妹の成長を描いた物語です。父は戦地におり、物語は姉妹たちがクリスマスの前に貧しい家族に食べ物を届ける活動をしています。メグ、ジョー、ベス、エイミーは、それぞれが様々な境遇や感情の中で成長していきます。メグは家庭を重んじ、ジョーは作家を目指し、ベスは音楽に情熱を注ぎ、エイミーは芸術家としての道を追求めます。隣家の少年ローリーとの深い絆を通じて、彼女たちは人生の意味を学び、自己実現を目指します。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】この物語は、家族の愛、個人の成長、そして真実の愛の重要性を温かく語りかけています。4人の少女が自分と同年代なので、本に没頭しやすく、また自分と全く違う生活を送っている事を知り、人生の多様性を考えさせられます。

(藤原咲花)

モンゴメリ著；村岡花子訳
『赤毛のアン』（新潮社）

933. 7/モ/1

◆カスバート家のマリラと兄のマシューは二人とも独身だったので、男の子を養子に迎えることに決めた。しかし、家に来たのは赤毛の女の子・アンだった。手違いだとマリラはアンを送り返そうとする。しかし明るく元気なこの少女を引き取ることにした。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 ジュースと間違えて友達にお酒を飲ませてしまったり、赤毛を馬鹿にしてきたクラスの男の子を石版で殴ったりと、かなりお転婆なアンだけど、友達思いで心優しいアンの物語は読んでいてとても面白いです。

(川崎舞琳)

◆手違いから老兄妹に引き取られた孤児のアンがあらゆる困難がありながらも成長していく。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 少女が成長していく姿を見ることができ、さらにロマンスも楽しめます。

(武田理沙)

◆孤児院から、男の子を引き取ろうとしていたカスバート家の兄妹であるマシューとマリラのもとに、間違えて連れてこられたやせっぽちの女の子アン。赤毛といわれるのが大嫌いで、想像力がとても豊かな女の子。そんなアンが、はらはらするような出来事を経て、成長していく物語。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 空想的で日々の小さな喜びを見つける大切さを知ることができる。

(藤田侑子)

ミヒヤエル・エンデ；大島かおり訳
『モモ』（岩波書店）

943. 8/E/(b)

◆時間泥棒に時間を盗まれた人たちを救うために、主人公のモモが奮闘する物語です。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 「時間」が盗まれるという、なかなか考えたことがないテーマではありながら、一度読み出したら、一緒に冒険しているような臨場感と、先の読めない展開に引き込まれるところ。

(鈴木湛)

ウィリアム・シェークスピア；福田恒存訳
『マクベス』（新潮社）

932. 5/シ

◆勇猛果敢だが小心な一面もある將軍マクベスが妻と謀って主君を暗殺し王位に就くが、内面・外面の重圧に耐えきれず錯乱して暴政を行い、貴族や王子らの復讐に倒れる。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 疑心暗鬼に苛まれ墮ちる人間精神の仔細な演出が特異的な本作。400年以上前の作品でありながら、人間の野心や不信や怯え、善悪の判断力を失い、過ちを犯す弱い心などの負の面は、現代と形はちがえど本質的なものは同じであり、それを伝える古典としての作品力の凄さが感じられる。

(高語欣)